

# 全国連盟通信

2020年11月5日

発行責任者 長井健治

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2 大住ビル402 TEL:03-3986-5401 FAX:03-3986-5403  
Eメール:zenkoku@njsf.net ホームページ:http://www.njsf.net

## 新たなスタートが 各地の取り組みとともに

新日本スポーツ連盟は、8月23日リモートでの第34回全国総会を開催し、新たな役員の下で活動をスタートしました。新たな形での総会には、代議員、リモート対応などで大変ご協力をいただいた各都道府県連盟、全国種目組織の方々にお礼申し上げます。

顔を合わせての意見交換や議論、各地の方々との交流などの楽しみが実現できるよう、スポーツ活動再開を望む声と感染の心配の“はざま”にあります。これからの取り組みに力を合わせましょう。

総会后、さっそく新しい役員の取り組みが現れています。長井健治理事長の企画した「WEBセミナー」の開催です。「スポーツのひろば」誌上で、第4回までの日程が発表されています。役員の育成・学習の機会をとの意見に応えた取り組みです。これから継続されますので、各地からテーマなどについて提案をいただいて、よりよい内容にしていきたいと思えます。一堂に会することが難しい中で、リモートを生かしたものです。

もう一つは「スポーツ事業継続支援補助」事業の「審査促進と改善」について、スポーツ庁への申し入

れを行ったことです。この事業は、スポーツ連盟などの地域のスポーツ団体、いわゆる「みなし法人」や「個人事業主」を対象に、活動の再開・継続のために必要な経費を支援する「画期的」な支援制度です。ところが、開始から2か月半たってもスポーツ連盟などの申請1000件のうち、認可が29件にとどまっています。そうしたことから「審査方法の改善と促進、事業の継続」について要望を行いました。大阪の関戸弘充副理事長も参加し、これまでの受付事務局とのやり取りなど具体的な改善点を指摘し、各地・種目からの申請を後押しする取り組みとしたいと力を込めて意見を述べました。

新たに選出された役員の意気込みが現れた2つの取り組みです。

いま各地、各種目での取り組み再開では、感染防止策に配慮を怠らず苦勞しながらも、創意工夫し、広がりつつあります。スポーツはなくてはならないものですから、各地の取り組み、意見を共有しつつ、取り組みを進めましょう。

(新日本スポーツ連盟会長 石川正三)



新日本スポーツ連盟は、新型コロナ感染拡大で延期していた第34回定期全国総会を8月23日、リモートによる新しい形で開催しました。初めてとなるオンラインによる総会は、3月に予定した議案を事前にYouTubeにより報告・提案することとしました。また、延期期間による「議案補足」、「新型コロナウイルスに関わる活動の経過」、「2020年度全国連盟分担金減額の緊急措置の修正予算案」などを追加配信するなど、理解を深める取り組みをしました。



オンライン総会の様子

## 初のオンライン総会の特徴

接続は事務所8ヶ所、個人宅48ヶ所となりました。5ヶ所の事務所では感染拡大防止ガイドラインの沿った“感染防止キット”を事前に送付しました。「運営」「議案提案、討議」「決算、予算」「役員選出」などが、代議員や理事の協力ですmoothに進行され、初期の目的を成功裡に達成することができました。

しかし、事前の接続試験と異なる場所からの接続を行った参加者が接続できないということも起こったこと、リモート環境のない代議員もいたことなどの問題もありました。「傍聴者がもっと多くても運営は可能ではないか」との意見もありました。オンラインを「運営」する担当者の配置など、今後の課題です。

## 総会代議員の参加

定期総会は、20都道府県と13種目組織から32人の代議員、賛助団体から1人、役員33人、傍聴者11人となり、77人が参加しました。北海道、埼玉、富山の都道府県連盟から委任状が出されましたが、これまでの総会と比較して代議員の出席率が向上しています。このことは、オンラインの「参加しやすさ」と同時に、今回緊急措置として「代議員を各組織1名」と対応したことが影響していると思われます。また、オンラインの結果「派遣費用が抑えられる」こととなりました。

## 討議の内容

討議では、事前に通告のあった15名の代議員からの発言となり、4名が文書発言となりました。発言の多くは、コロナ禍での新たな取り組みへの挑戦や、

コロナ後のスポーツ活動を前進に向けるための思い、決意が出ている内容でした。

総会後のアンケートには「『討論』という限りはもう少し意見を言い合う場所を、ブレイクルームなどを使用しても良かった」との声も寄せられており、オンライン会議での討論の進め方として今後の改善点として挙げられます。

## 新たな役員と機構

新たに選出された全国理事は前期から1名増の34名となり、女性理事が1名増え20%となりました。平均年齢は前期と同じで55.2歳です。三役だけを見ると3.1歳若返りました。

現役世代が運営の中心となることで、新たな知見や方向性、分野への取り組みが広がること、「複数代表制」などへの移行を計るとともに、取り組みの前進が図られるよう、理事会の一層の活動とともに新たに選出された専門委員の協力を得ながら取り組むことが求められます。

## 今後の活動方針と課題

総会で決定した「活動方針」の実現に向けて、総会スローガン“スポーツの楽しさをすべての人に広げよう”を“スポーツはかきねを越えて”を実践することです。

特に、コロナ禍の中で減少した会員の回復を目指す取り組みは、感染拡大の状況もあり一朝一夕にはいかないことが予想されますが、これまで培ってきた経験を活かした感染防止策を講じながら、感染不安を感じる声にも配慮して進める必要があります。

また、すでに取り組まれている種目もありますが、「種目の維持に登録継続要請」など、特別な取り組みが求められます。また、「大会、行事」主体の運営から、今回のような不測の事態となったとしても「種目組織維持」のできる活動スタイルや、会の「会費」についても「連盟費・分担金だけでなく」運営経費を含めた内容にするなどの工夫も求められるでしょう。こうした点は、種目組織ごとの成り立ちもあり、十分な論議が必要です。こうした内容とともに活動方針にある以下の点について具体化しましょう。

### ①楽しいスポーツの輪をつくり、広げるために

33期でつくりあげた前進面を組織的前進に結び付けましょう。各種目組織で組織化に向けた論議を具体化しましょう。

感染防止の中での組織発展を、「感染不安とスポーツ要求」の両面から捉え、現在できる最善の取り組みを行いましょ。

新型コロナ感染拡大の中で減少した会員をもとに戻す取り組みは、行事实施がもとに戻っても簡単ではないことが予想されます。会員継続の取り組み促進は、組織維持制度の確立への論議とともに進めましょう。

### ②新しい組織づくりや行事にチャレンジを

沖縄県など、新たな県連盟の実現に向けて種目組織と連携して進めましょう。

オンラインの広がりや、Zoomなどの利用で新たな取り組みに向けて具体化しましょう。

### ③第34回全国スポーツ祭典、全国競技大会の成功に向けて

新型コロナ感染拡大の中で、多くの種目で予選会の開催ができなくなり、2020年度は「全国スポーツ祭典」としての開催を中止しました。

次回第34回全国スポーツ祭典は「中・四国ブロックでの開催」とし、「関東ブロックが支援する」ことで成功をめざします。

### ④スポーツ環境の改善と、平和な社会の実現に向けて

スポーツ継続助成金の申請と制度改革に向けた取り組み、「制度を評価しつつ積極的な申請」「継続的な制度としての補強」の取り組みを行います。

新たな取り組みとなった“#チャレンジ1800km 反核平和マラソン”は、可能性を広げる企画となりました。「スポーツは平和とともに」を広げる取り組みを各地で進めます。

### ⑤2020東京オリンピック・パラリンピックにむけて

世界的な感染拡大が続く中で、開催を強く望む選手たちの願いを理解しつつも、本当に開催が可能なのか、開催することが適切なのかという疑問も広がっています。スポーツ連盟は、WHOを含む専門家の意見を真摯に受け止め、選手たちの安全と世界の人々の命を優先することを前提に、開催の是非について早期に検討することをI O Cに呼びかけます。

また、今後のオリンピック運動の改革について、コロナ禍で明らかになった課題を含め、アジェンダ2020を基礎とする検討することを呼びかけます。

### ⑥ジェンダー、環境などの課題に向きあって

ジェンダー問題については、性的指向・性自認(S O G I)に関する理解を深めるために、スポーツ協会から提供を受けた「体育・スポーツにおける多様な性のあり方ガイドライン」を資料に学習会を計画します。異常気象などで大きな問題となっている環境問題については、専門家や労山の協力も得て取り組みを検討していきます。

### ⑦相互理解と友好を、スポーツを通じて

韓国体育市民連帯、F S G Tとの交流をひきつぎ取り組みます。現在F S G Tから2021年3月に招待を受けています。


### ⑧「スポーツのひろば」の普及・充実を

コロナ禍で登録・会員の減少は“スポーツのひろば”の減少につながっています。各連盟・種目組織での登録・会員回復と同時に、制作側(編集部)と連携して“スポーツのひろば”普及に取り組みます。

### ⑨スポーツ科学研究所、労山との連携を強化して行きます。

スポーツ分野での課題として「ジェンダー」や「環境」問題については、スポーツ科学研究所関係者のつながりを得て、連携した取り組みを行っていきます。


労山との連携については、共同行動を広げていくことを継承し、環境問題では多くの経験をしていることから学んでいきます。

 **YouTube 限定配信**

**第34回定期全国総会**

**全動画**

QRコードから→



第34回全国総会後の「第1回理事会」が、9月19日オンラインで開催され、26名が出席し、今期理事会の出発となりました。開会にあたって、石川正三会長は「コロナ禍で難しい局面となっているが、スポーツ活動を再開し、方針の実現に力を尽くせるよう、一歩踏み出す理事会にしたい」と挨拶しました。

今回、機構と役割分担の基本的な考え方、各局の理事の配置を確認(下記参照)。また、各地での新型コロナ対策と活動再開状況や、スポーツ活動継続サポート事業の申請状況の報告などがありました。

また、スポーツ活動が制限される中、連盟員とのつながりをどう継続するか、今だからこそ何か全国から発信できるものはないかと検討したうえで、「WEB配信スポーツセミナー」企画の提起があり、2週間に1度のペースで実施していくことになりました(8頁参照)。

最後のまとめでは、長井健治理事長が「オンラインを前提とするのではなく、今後どこかのタイミングで顔を合わせられる形も検討したい。また、顔を出せるにはできるだけ出向いていきたいと考えているので、よろしく願います」と語りました。

## <理事会の機構・分担の基本的な考え方>

●理事会は、第34回定期全国総会方針を具体化した活動を執行するために、①スポーツ活動・組織局 ②スポーツ権・平和運動局 ③国際活動局 ④広報局 ⑤総務局の5局を中心とした運営を行います。

●各委員会、プロジェクトなどは、各局の担当枠をこえたメンバー構成で運営します。

●各局・委員会などの活動推進に必要な場合、理事以外の部員、専門委員を委嘱することとします。

## <5局の役割と運営> 理事一覧は次頁を参照

### ①スポーツ活動・組織局

スポーツ活動前進とその組織化について、具体的方針の提案、活動の把握、分析を行います。

メンバー：宮内(局長)、関戸、青木、穴原、大田、大淵、大森、柿崎、菅原、富内、山下

### ②スポーツ権・平和運動局

スポーツを行う条件整備のための活動、人権擁護、フェアプレーの普及、平和活動に取り組みます。

メンバー：福島邦夫(局長)、青沼、太田、岡本、間間、渋谷、中塚、脇村

### ③国際活動局

スポーツを通じて交流と友好を促進するため、組織間の調整や、情報の収集などを行います。

メンバー：長井(局長)、神田、小川、桂(部員)佐藤静雄、佐藤好行、藪並、松野、伊賀野

### ④広報局

4ツール(「ひろば」、HP、「全国通信」、ニュース)を中心に、情報を発信していきます。

メンバー：佐藤(局長)、小山、園川、橋本、前川、渡辺

### ⑤総務局

スポーツ連盟の実務を円滑に行うために、財政、見舞金、「ひろば」読者管理などに取り組みます。

メンバー：小林(局長)、置田、鈴木、根岸、福島宏子(部員)板垣

### ※スポーツ科学研究所

市民のためのスポーツ科学とその体制の創造・発展に寄与する研究を進めます。

## <委員会・プロジェクト>

### ●組織拡大推進委員会

これまで作り上げてきた前進面を具体化し、空白県に連盟組織の確立(例：沖縄)などの取り組みます。

### ●種目組織プロジェクト

ソフトボール、空手などの種目で、加盟が広がるようサポートします。

### ●公共スポーツ施設情報センター

全国の公共スポーツ施設の情報を集約して、各地に提供します。

### ●HP・SNSプロジェクト

スポーツ連盟の活動を広く宣伝するための新しい方策(SNS、動画など)を検討します。

### ●組織検討委員会

第35期複数代表制への移行に向けた準備、規約改正、運営機構の在り方などを検討します。

### ●感染症対策本部

スポーツ活動におけるガイドラインの啓蒙、スポーツ活動のなかで陽性がでた場合の対応

### ●法人化検討チーム

「法人化をするかどうか」という課題を軸に組織の在り方を検討します。

### ●分担金検討委員会

組織拡大のための柔軟な分担金制度を検討します。

# スポーツ活動継続サポート事業

各地で申請  
交付も決まる

新型コロナで活動自粛を余儀なくされたスポーツ団体・個人事業主を対象に、スポーツ活動の継続を支援する「スポーツ活動継続サポート事業」（スポーツ庁令和2年度第2次補正予算事業の補助金制度）に、スポーツ連盟の各団体が申請を提出しています。

8月28日には、新日本スポーツ連盟大阪府野球協議会と、大阪バレーボール協議会に補助金が交付されることが決まりました。

## スポーツ庁に要望書を提出

9月25日、新日本スポーツ連盟は「スポーツ活動継続サポート事業」の審査方法の改善と促進についての要望書をスポーツ庁に提出し、懇談を行いました。



この「スポーツ活動継続サポート事業」は、今年7月に申請受付が開始されて2ヶ月半が経過した時点で、交付決定者はわずか29件でした。

今回、実際の手続き上での問題点を示し、「特別委員会による審査回数の増加」「事業期間の延長」「書類修正における指示を具体的な表現で」「レシートでの経費支出証明」などを要請しました。

今回、実際の手続き上での問題点を示し、「特別委員会による審査回数の増加」「事業期間の延長」「書類修正における指示を具体的な表現で」「レシートでの経費支出証明」などを要請しました。

大阪府連盟事務局長・関戸弘充さんからは「名簿や組織図などの提出を求められ、1ヶ月間引っ張られた。修正書類の返事が来るまでに2週間かかったこともあった。非常にありがたい制度だが、申請後の対応には不信感が募る」との声。また、よこはま月例マラソン運営委員会からは「密を避け1人ずつスタートするシステムに必要な経費が、ガイドライ

ンを考慮した新たな対策に該当しないのはおかしいのでは」という意見が出されました。

スポーツ庁の担当者からは「書類チェックから審査に至るまでのシステムの合理化を図る予定。申請者が困っている状況を受けとめ、補助金事務局と問題意識を共有し改善できるようにしたい」との話がありました。

また、同日は、新日本スポーツ連盟大阪府連盟への補助金の交付が決定しました。大阪府連盟は、受付が始まった7月8日に申請書類を提出。大阪の各種目とも連携して、より多くの組織が申請するように、書類作成に努めてきました。「『協議会』という名称では事業者にあたらぬ」「大阪府連盟と各種目組織が別組織であることを明確にできる資料を提出せよ」など、補助金事務局からの指摘に、毅然とした態度で対応し、情報を共有してくれています。全国に先駆けて、大阪府連盟が問題に対処してきたことが、その後の他組織の取り組みの布石となりました。

## 申請受付期間、延長される

10月16日には、申請〆切が、当初予定されていた10月31日から11月30日に延長されることになりました。また、9月にスポーツ連盟がスポーツ庁に提出した、補助金の審査方法などについての要望項目に対して、いくつかの改善が図られています。

その後、10月23日には、新日本スポーツ連盟全国連盟、大阪テニス協会、神奈川ウォーキングクラブの交付が決定。一方で、申請後の「スポーツ事業継続支援補助金事務局（日本スポーツ協会）」の対応では、「申請書類を2度紛失され、再提出を求められた」「まったく同じ内容の修正依頼があった」「修正を提出すると、また違う部分の修正を求められた」「事業の高度化・近代化を求める指示が頻繁にあった」など、首を傾げざるを得ないケースがあり、今後も粘り強くやりとりをすることが必要です。

全国連盟では、より多くの連盟組織が申請できるようにサポートします。

詳しくは TEL 03-3986-5401 まで

# 各地・各種目でスポーツ活動再開！

2020年度の全国規模の大会は、サッカー（一般）、シニアサッカー、スキー・スノーボード競技の3大会のみとなりましたが、10月に入り、各地のスポーツ連盟では、徐々にスポーツ活動が再開されるようになっていきます。スポーツ行事を中止している他団体が多いなか、大会を開催すると応募が殺到する例も見られます。スポーツ愛好者の要望に応えながら、主催者側はコロナ対策をしっかりと行い、安全性を図った大会運営に努めましょう。

## 感染予防対策について

基本的に、日本スポーツ協会の「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（5月29日）に準じて、感染予防に取り組んでください。

また、各自治体施設管理者との事前協議を行い、施設管理者の指示を聞くことが大切です。その上で開催方法を決め、参加者とも協力して行事を行いましょう。

### ●主な対策内容

- ・健康チェックシートの提出と保管
- ・「参加者が遵守すべき事項」の掲示
- ・「参加者が遵守すべき事項」のアナウンス
- ・消毒液の設置
- ・マスクの準備
- ・対面する場での遮蔽
- ・入場時の体温計測
- ・参加者数の制限
- ・午前/午後入替制
- ・更衣室・シャワーの使用禁止
- ・会場の換気、ドアの開放

競技における感染予防対策については、各競技団体が発表しているガイドラインに準じた対応を行うようにしてください。

## 各大会行事での工夫

- 大阪陸上競技大会
  - ・入場口と出口を分け、サーモグラフィによる検温
  - ・検温チェック済の入場者にリストバンド
- 東京卓球協議会



参加者が遵守すべき事項

- ・朝の通勤ラッシュを避けるために開場時間を遅くして10時にした
- ・車で参加者のため体育館の駐車場を優先予約・割引券があることを宣伝
- 神奈川 月例マラソン
  - ・ピストルによる一斉スタートではなく、ひとり一人の「パラパラスタート」
  - ・スタートタイムとゴールタイムとの差を計算して記録発表する
- ウォーキング協議会
  - ・全国一斉 Hitori de walk みんなでリモート
  - ・社会的距離を保って、家の近くでひとりウォーク
  - ・ソフト「伝助」に歩いた記録を入力
  - ・Zoomを使い、オンラインで仲間と交流



パラパラスタートの様子



# 第34期 主要事業予定一覧

2020年 11月	12日	創立記念日	
	14日		労山60周年記念行事
	15日	第3回WEBスポーツセミナー	全国サッカー大会 一般の部
	21～22日		全国シニアサッカー大会
	21～22日		第1回愛知オープンバドミントン大会
	29日	第4回WEBスポーツセミナー	
	30日	第3回三役会議	
12月 5～6日			全国スキー協中央研修会
	6日		富山県連盟総会、愛知ビビチッタ(予定)
	12日	第3回理事会	
	13日	第5回WEBスポーツセミナー	
	17日	「スポーツのひろば」1・2月号発行	
2021年 1月	10日		大阪新春マラソン、のおがた新春マラソン
2月	14日	第4回理事会(予定)	
	20日	第1回評議員会(予定)	
	27～28日		全国スキー・スノーボード競技大会
3月	5～16日		スキー代表団をFSGTに派遣
4月	11日	第5回理事会(予定)	
8月	29日	第6回理事会(予定)	
12月	12日	第7回理事会(予定)	

## WEB配信 スポーツセミナー



主催 新日本スポーツ連盟

かきねを越えた学びの場、考える場、交流する場を提供していきます。興味のある方は是非お気軽にご参加ください。

**参加費** 連盟員・ひろば購読者：無料  
非連盟員：1,000円

**申込** 右記の全国事務局メール(または電話)で「お名前」「メールアドレス」「電話番号」を事務局に伝えて、お申込みください。後日、Zoomの入室アドレスをお送りします。

**全国事務局** ✉ [zenkoku@njsf.net](mailto:zenkoku@njsf.net)  
☎ 03-3986-5401

### セミナー 日程

- 第1回 10月18日(日) **終了**  
山崎健さん(新潟大学名誉教授)  
ヒトの健康と身体活動・スポーツの意味するもの～人はなぜスポーツをするのか～
  - 第2回 11月1日(日) **終了**  
青沼裕之さん(武蔵野美術大学教授)  
ワールド・サッカーのルーツ
  - 第3回 11月15日(日)  
川嶋高志さん(日本勤労者山岳連盟事務局長)  
中山間地で文化芸術、スポーツを楽しむ
  - 第4回 11月29日(日)  
和食昭夫さん(新日本スポーツ連盟前会長)  
オリンピックについて知ろう(仮題)
  - 第5回 12月13日(日)  
和泉民郎さん(「しんぶん赤旗」記者)  
テーマ：スポーツ記者の「視点」(仮題)
- ※時間はすべて19:00～です。